

要旨

文法アスペクトと語彙アスペクトのインタラクションは様々な言語で指摘されている。本発表では、ジンポー語(北ビルマ：シナ・チベット語族)における文法アスペクトと語彙アスペクトのインタラクションとして、変化相 (change-of-state) と限界性 (telicity) のインタラクションを検討する。ジンポー語は、多くの東南アジア大陸部諸語同様、アスペクト卓立型言語であり、変化相 (=sai) と非変化相 (=ʔai) の二項対立型の文法アスペクトを示す。先行研究では、変化相が開始と終了の両局面をマークしうるということが知られていたが、その条件は明らかにされていなかった。本発表では、発表者がフィールドワークにより蒐集した一次資料に基づきながら、変化相の2つの解釈に限界性が関与することを指摘し、結論としてこのアスペクトが非限界事象 (atelic) で開始を、限界事象 (telic) で終了をマークすることを示す。また、限界性とアスペクトクラスにかんする先行研究が示す通り、ジンポー語変化相の解釈においても、語彙アスペクトだけでなくアスペクトクラスを考慮しなければならないことを指摘する。

1 はじめに

(1) 背景

- a. 文法的アスペクトと語彙アスペクトのインタラクション (Comrie 1976, Smith 1997, Li and Shirai 2000, Tatevosov 2002, de Swart 2012, etc.)
- b. *進行相 + 状態動詞 (英語)
 - *Kim was knowing the answer. (Smith 1997: 40)
- c. 進行相 + 一回動詞 = 繰り返し
 - Allan was coughing. (ibid., p.172)

(2) 目的と結論

- a. ジンポー語における文法的アスペクトと語彙アスペクトのインタラクション
- b. 文法アスペクト：変化相 (change-of-state) vs. 非変化相 (non-change-of-state)
- c. 現象：変化相 (=sai) は開始と終了の両局面をマークしうる
(e.g., thùʔ=sai 「(雨が) 降り始めた」 vs. 「(雨が) 降り終わった」)
- d. 目的：変化相はどのような場合に開始を、どのような場合に終了を表すか
- e. 結論：変化相は非限界事象 (atelic) で開始を、限界事象 (telic) で終了をマーク

(3) ジンポー語

- a. 系統：シナ・チベット語族、チベット・ビルマ語派、サル語支、ジンポー・ルイ語群
- b. 地域：北ビルマ、中国雲南省西端、北東インドの一部
- c. 社会：カチン諸語 (ジンポー語、ツアイワ語、ロンウォー語、ラチッ語、ラワン語 etc.)

(4) 類型の特徴

- a. 音韻：弱強型・音節声調
- b. 形態：分析的・膠着的
- c. 品詞：名詞、動詞、副詞、助詞、間投詞 (形容詞は動詞の一種)
- d. 統語：動詞末尾 (SV, AOV)、Locus (二重標示型)、動詞一致 (階層型)、格標示 (主格-対格型)、示差的目的語標示 (DOM)、相・法卓立、動詞連続、pivotless、文法的体言化 (いわゆる動詞補文、名詞補文、関係節、内在節、無主部節、副詞節など幅広い機能領域に使用)

2 文法アスペクト

(5) アスペクトの卓立性

ジンポー語は、多くの東南アジア大陸部諸語同様、アスペクト卓立型言語である

(6) ジンポー語の文法アスペクト

- a. 変化相 (=sai) と非変化相 (=?ai) の二項対立型のアスペクトを持つ
- b. 動詞は義務的にどちらかのアスペクトによりマークされる
- c. 変化相は状態変化を表し、非変化相はそれ以外の状況を表す

(7) 変化相 vs. 非変化相

- a. shi makhón langâi khón=s-ai.
3sg 歌 1 歌う=CSM-DECL
「彼は歌を1曲もう歌った (歌い終えた。)」
- b. shi makhón langâi khón=?ai.
3sg 歌 1 歌う=DECL
「彼は歌を1曲歌った。」

(8) テンス

ジンポー語は、多くの東南アジア大陸部諸語同様、テンスを持たない言語である

- (9) a. shi ntâ=kó? ngà=?ai.
3sg 家=LOC いる=DECL
「彼は家にいる。」
- b. shi ?maní ntâ=kó? ngà=?ai.
3sg 昨日 家=LOC いる=DECL
「昨日、彼は家にいた。」

(10) 変化相の2面性

- a. 変化相は開始と終了のどちらの局面もマークすることが知られる
- 動作行為あるいは性質状態がすでに完成・変化したことを表すが、一部の環境で動作行為あるいは性質状態の開始を表す(戴・徐 1992: 272)
 - 開始であれ、終了であれ、状態変化を表す(Kurabe 2017: 1003)
- b. 先行研究ではその環境についてはとくに触れられていない

(11) 開始 vs. 終了

- a. shánthe makhón khón=s-ai. khán khón=?ù?
3pl 歌 歌う=CSM-DECL 追う 歌う=IMP
「彼らは歌を歌い始めた。(あなたも)続けて歌いなさい。」[開始]
- b. shánthe makhón langâi khón=s-ai.
3pl 歌 1 歌う=CSM-DECL
「彼らは歌を1曲歌い終えた。」[終了]

3 変化相と語彙アスペクト

(12) 語彙アスペクト (Vendler 1957 [1967], etc.; cf. Smith 1997)

- | | | | |
|--------------------------|-----------|----------|-------------|
| a. 状態動詞 (State) | [+static] | [-telic] | [-punctual] |
| b. 動作動詞 (Activity) | [-static] | [-telic] | [-punctual] |
| c. 到達動詞 (Achievement) | [-static] | [+telic] | [+punctual] |
| d. 一回動詞 (Semelfactive) | [-static] | [-telic] | [+punctual] |
| e. 達成動詞 (Accomplishment) | [-static] | [+telic] | [-punctual] |

(13) ジンポー語の語彙アスペクト

- a. 状態動詞 ngà 「いる」、rà? 「好む」、rà 「必要だ」、rau 「ひまだ」
- b. 動作動詞 khom 「歩く」、kà 「踊る」、khràp 「泣く」、thu 「(カートを)押す」
- c. 到達動詞 dù 「着く」、dì? 「切れる」、gà? 「割れる」、kapò 「爆発する」
- d. 一回動詞 jakhrù 「咳をする」、grìp 「まばたきをする」、gathì 「くしゃみをする」
- e. 達成動詞 thí 「(1冊)読む」、ka 「(円を)描く」、gàp 「(1軒)建てる」、khró? 「乾く」

(14) 限界性のテスト (Vendler 1957)

[-telic]: khying khùm mi 「1時間」

[+telic]: hkying khùm mi=thè? 「1時間で」

(15) 状態動詞 [-telic]

shi sún=kó? khying khùm mi ngà=?ai.
3sg 庭=LOC 時間 CLF 1 いる=DECL
「彼は庭に1時間いた。」

(16) 動作動詞 [-telic]

shi sùn=kó? khying khùm mi khom=?ai.
3sg 庭=LOC 時間 CLF 1 歩く=DECL
「彼は庭で1時間歩いた。」

(17) 一回動詞 [-telic]

shi khying khùm mi jakhrù=?ai.
3sg 時間 CLF 1 咳をする=DECL
「彼は1時間咳をした。」

(18) 到達動詞 [+telic]

shi sùn=kó? khying khùm mi=thè? dù=?ai.
3sg 庭=LOC 時間 CLF 1=COM 着く=DECL
「彼は庭に1時間で着いた。」

(19) 達成動詞 [+telic]

palong khying khùm mi=thè? khró=?ai.
服 時間 CLF 1=COM 乾く=DECL
「服が1時間で乾いた。」

(20) 状態動詞 + 変化相 = 開始 (デフォルト)

- a. ngà=sai 「い始めた」
- b. rà=sai 「必要になった (必要な状態が開始した)」
- c. rà?=sai 「好きになった (好きな状態が開始した)」

(21) 動作動詞 + 変化相 = 開始 (デフォルト)

- a. khom=sai 「歩き始めた」
- b. kà=sai 「踊り始めた」
- c. khràp=sai 「泣き始めた」

(22) 一回動詞 + 変化相 = 開始 (デフォルト)

- a. jakhrù=sai 「咳をし始めた」
- b. grìp=sai 「まばたきし始めた」
- c. gathì=sai 「くしゃみし始めた」

(23) 到達動詞 + 変化相 = 終了 (デフォルト)

- a. dù=sai 「(家に) 着いた (着き終わった)」
- b. dì?=sai 「(糸が) 切れた (切れ終わった)」
- c. kapò=sai 「(爆弾が) 爆発した (爆発し終わった)」

(24) 達成動詞 + 変化相 = 終了 (デフォルト)

- a. thí=sai 「(1冊) 読み終わった」
- b. ka=sai 「(円を) 書き終わった」
- c. gáp=sai 「(1軒) 建て終わった」

(25) 変化相と限界性

- a. 変化相 + [-telic] = 開始
- b. 変化相 + [+telic] = 終了

4 変化相とアスペクトクラス

(26) アスペクトクラス (Verkuyl 1972, Comrie 1976, Smith 1997, etc.)

- a. aspectual class, situation aspect, actionality, etc.
- b. アスペクトは、個別の動詞ではなく、述語・項構造のレベル (VP, S) で決定される
- c. 名詞句の指定量素性 (Verkuyl 1972)
 - [+telic]: Susan ate an apple in/#for 30 seconds.
 - [-telic]: Susan ate apples for/#in 5 minutes.

(27) 方向補語 (directional complement)

- a. shi sún=kó? khom=s-ai.
3sg 庭=LOC 歩く=CSM-DECL
「彼は庭で歩き始めた。(あなたも加わりなさい。)」 [開始]
- b. shi sún=dùkhrà khom=s-ai.
3sg 庭=まで 歩く=CSM-DECL
「彼は庭まで歩き終えた。」 [終了]

(28) 指定量 (specific quantity)

- a. shi mùk-tong=ni shá=s-ai.
3sg bread-round=PL 食べる=CSM-DECL
「彼はパンをたくさん食べ始めた。(あなたも加わりなさい。)」 [開始]
shi mùk-tong langâi shá=s-ai.
3sg bread-round 1 食べる=CSM-DECL
「彼はパンを1つ食べ終えた。」 [終了]

(29) 度量句 (measure phrase)

- a. shi khom=s-ai.
3sg 歩く=CSM-DECL
「彼は歩き始めた。(あなたも加わりなさい。)」[開始]
- b. shi deng masum khom=s-ai.
3sg マイル 3 歩く=CSM-DECL
「彼は3マイル歩き終えた。」[終了]

(30) 度量句

- a. shi khà? lù?=s-ai.
3sg 水 飲む=CSM-DECL
「彼は水を飲み始めた。(あなたも加わりなさい。)」[開始]
- b. shi khà? gom mi lù?=s-ai.
3sg 水 CLF 1 飲む=CSM-DECL
「彼は水を1杯飲み終えた。」[終了]

(31) 度量句

- a. shi jakhrù=s-ai.
3sg 咳をする=CSM-DECL
「彼は咳をし始めた。(あなたも加わりなさい。)」[開始]
- b. shi masum-làng jakhrù=s-ai.
3sg 3-回 咳をする=CSM-DECL
「彼は3回咳をした(し終えた。)」[終了]

(32) 度量句

- a. shi sún=kó? ngà=s-ai.
3sg 庭=LOC いる=CSM-DECL
「彼は庭に始めた。(あなたも加わりなさい。)」[開始]
- b. shi shaní=túp sún=kó? ngà=s-ai.
3sg 日-全 庭=LOC いる=CSM-DECL
「彼は1日中庭にいた(い終えた。)」[終了]

5 まとめ

文法アスペクトと語彙アスペクトのインタラクションは様々な言語で指摘されている。本発表では、ジンポー語の文法アスペクトと語彙アスペクトのインタラクションとして、変化相と限界性を検討した。先行研究では、変化相が開始と終了の両局面をマークすることが知られていたが、その条件は明らかにされていなかった。本発表では、変化相の解釈に限界性が関与することを指摘し、このアスペクトが非限界事象 (atelic) で開始を、限界事象 (telic) で終了をマークすることを示した。また、限界性はアスペクトクラスにかんする先行研究が示す通り、ジン

ポー語の変化相解釈においても、語彙アスペクトだけでなくアスペクトクラスを考慮しなければならなかった。

データ

本稿で提示するデータは、筆者によるフィールドワークにより蒐集した作例に基づく。

略号一覧

3 (3 人称); pl (複数); sg (単数); CLF (類別詞); COM (共格); CSM (変化相標識); DECL (叙述法); IMP (命令法); LOC (位格)

附記

本稿は科学研究費補助金 (課題番号 JP17H04523) による研究成果の一部である。

参考文献

- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect: An introduction to the study of verbal aspect and related problems*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 戴慶厦 (2012) 『景頗語参考語法』北京: 中国社会科学出版社.
- 戴慶厦・徐悉艱 (1992) 『景頗語語法』北京: 中央民族学院出版社.
- Hanson, Ola (1896) *A grammar of the Kachin language*. Rangoon: American Baptist Mission Press.
- Kurabe, Keita (2017) Jinghpaw. In Graham Thurgood and Randy J. LaPolla (eds.) *The Sino-Tibetan languages*, 2nd Edition, 993–1010. London and New York: Routledge.
- Li, Ping and Yasuhiro Shirai. 2000. *The acquisition of lexical and grammatical aspect*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- Smith, Carlota S. 1997. *The parameters of aspect*, 2nd ed. Dordrecht, Holland: Kluwer.
- de Swart, Henriette. 2012. Verbal aspect. In Binnick, R.I. (ed.) *The Oxford handbook of tense and aspect*, 752–780. Oxford: Oxford University Press.
- Tatevosov, Sergej. 2002. The parameter of actionality. *Linguistic Typology* 6.3: 317–401.
- Vendler, Zeno. 1957. Verbs and times. *Philosophical Review* 66: 143–160.
- Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in philosophy*. Ithaca, New York: Cornell University Press.
- Verkuyl, H. J. 1972. *On the compositional nature of the aspects*. Dordrecht, The Netherlands: Reidel.